

## 親としての喜び

昨日、あることで卒業生の保護者（母親）と出会いました。あいさつを済ませると、話題は自然と卒業した生徒のことに移りました。

「〇〇君、どうですか。元気に高校に行っていますか。」

「はい！元気ですよ。夏休みに入ったので、朝から自分で自転車に乗って部活動に行っていますよ！」

彼女はうれしそうに語りました。私はその時、彼女のうれしさは、元気で高校生活を送っていること以上に、我が子が成長しつつあることを日々実感しているからだと思いました。

その卒業生は、中学時代にはソフトテニスで優秀な成績を収め、更なるレベルアップを求めて、高校でもソフトテニスに取り組んでいます。

中学時代の彼は素質と努力が開花し、ソフトテニスにおいて華々しい成績を収めました。その分、リラックスする時間を生活の中に求めていたように思います。その一つの姿として、彼はほぼ毎日両親のどちらかが運転する車で送ってもらっていたという事実がありました。

「校長先生、親は下の子には甘いであかんのお。」

ある日、我が子を送ってきた彼の父親が発した一言です。生活において自立させたいという親の思いが込められている言葉として私は受け止めました。

高校生になった彼が、親を頼らず自転車で通学するようになった理由はわかりません。部の約束になっているのかもしれないし、自分で思い立ったのかもしれない。いずれにしても、時が来れば、人は自分でやらなければという気もちが生まれてくるものです。それが本来の自立だと、私は思います。

彼の母親は、高校生になってまだ間もない我が子が、自力で学校に行くようになり、大好きなソフトテニスにひたむきに組み組んでいるところに、親としての喜びをみつけたのだと思います。

親は我が子の優秀な成績にも喜びますが、その前に、過去より成長している我が子の姿を喜ぶものです。親のために頑張るのではありませんが、毎日そっと支えてくれている親のことを、生徒の皆さんには知っておいてもらいたいと思っています。今のあなたの姿に、親は喜んでいきますか。

（七月二十九日 記）

